

令和5年度第3回図書館協議会議事録

1 開催日時 令和6年3月22日（金）午後2時～午後4時

2 開催場所 浦安市立中央図書館2階 視聴覚室

3 出席者

（委員）松本委員長、西村副委員長、井上委員、持永委員、新井委員、館委員、
齊藤委員、日比谷委員、花村委員

（事務局）中央図書館長、中央図書館職員4名

4 傍聴人 2名

5 議題

報告事項

（1）令和5年度図書館自己点検評価について

（2）中央図書館ファブスペースの開設について

協議事項

（1）中央図書館ファブスペースの活用について

6 議事の概要

報告事項

（1）令和5年度図書館自己点検評価について、事務局より報告を行った。

（2）中央図書館ファブスペースの開設について、事務局より報告を行った。

協議事項

（1）中央図書館ファブスペースの活用について

7 会議経過

報告事項

（1）令和5年度図書館自己点検評価について、事務局より報告を行った。その際に表明された意見（質問）は次のとおり。

（委員）評価項目3「レファレンスサービス」の満足度調査について、◎と○といった記号ではなく、言葉に言い換えてはどうか。

（事務局）次回以降、配慮する。

（委員）満足度の表中数字の単位は件数か。

（事務局）そうである。

（委員）中央図書館と分館とではレファレンスサービスに違いはあるか。

- (事務局) 中央図書館レファレンス室には調査のための資料やデータベースが揃っているため、より詳しい回答を提示することができる。それに比較すると分館では資料に限りがあるため、場合によっては中央図書館レファレンス室に引き継いで対応するケースもある。
- (委員) 利用者は高齢者が多いのか。12～18歳の若い人たちにも利用してもらえたらと思う。
- (事務局) 中学生までは基本的には児童カウンターで対応している。利用者の年齢については記録していないが、今後の参考とさせていただく。
- (委員) 新型コロナウイルスの感染増加時は短時間で借りて帰る、という利用だったのが、5類に移行後は滞在型の利用になっているのではないかと思っている。評価項目1「中央図書館の来館利用」について、貸出冊数が増えていないとあるが、悲観する必要はない。
- (事務局) 数値化できるもので成果を見るしかないという状況があるが、中央図書館のリニューアルコンセプトにあるように、市民の方が長時間過ごせて居心地が良い図書館を目指している。本を借りるだけではない図書館の多様な利用が増えていると考えており、数値化できないところではあるが、前向きにとらえている。
- (2) 中央図書館ファブスペースの開設について、事務局より報告を行った。続いて、協議事項(1)として意見を求めた。

協議事項

- (1) 中央図書館ファブスペースの活用について、委員より表明された意見(質問)は次のとおり。
- (委員) ファブスペースはメイカースペースとも呼ばれることがある。欧米ではメイカースペースが併設されている図書館が一般化しているが、日本では非常に珍しい。浦安市立図書館といえばしっかりと資料提供をして来た図書館として知られているが、ファブスペースを開設することで注目されると思う。
- (委員) 千葉県立盲学校の数学教諭と話した際に、生徒に3次元を理解させるうえで立体造形は非常に効果的だということを知った。数学や物理の先生方にPRしていただけたらと思う。また、親が子どもに教えてあげることも価値がある。
- (委員) 学校図書館の中にファブを設けている私立学校もある。
- (委員) 日本では開設はしたが順調に運営できているファブスペースが少ないと聞いている。うまく活用するためのポイントとして、いつでも自由に利用できる点が大きいと思う。危険なため予約制にしたり、ふらっと来て自由に利用できなかったりすると、運営が縮小してしまうイメージがある。市民が自由な時間に利用できるようになるとよい。
- (委員) ファブスペースを図書館に開設するメリットはどのようなものか。

- (委員) 日本では、図書館は知識や情報を得る場所という面が大きいですが、欧米では公民館のような役割も担っており、何かを作るということも図書館の伝統的な活動としてあった。何かを創造する場所として、図書館の領域を広げていくことが背景にある。
- (事務局) 欧米とは異なり、日本の図書館、また、浦安市立図書館も、比較的伝統的な図書活動をして来た。図書館にファブスペースを開設する意義として2点あり、ひとつは、情報が集まっている図書館で、インプットした情報を、ものづくりを通してアウトプットできること。もうひとつは、図書館は、老若男女が登録や資格がなくても訪れることができる身近な場所である点である。
- (委員) ファブスペースを運営する際の連携課はあるか。図書館だけで事業を担うのは相当大変だと思う。機器の使用方法を利用者にはしっかり伝え、手をかける手間を一緒にやる他課が必要だ。
- (事務局) 図書館のファブスペースは、生涯学習を目的として開設するものであり、主管課は中央図書館である。市のものづくり推進事業として、産業支援という面で商工観光課と連携していく予定である。
- (委員) 盲学校を含めた学校連携や、商工会議所等でPRなどを積極的に実施し、宝の持ち腐れにならないようにしてほしい。ファブリケーション機器類は開発速度が速いため、陳腐化するのも速い傾向がある。
- (委員) 民間との連携は考えているか。
- (事務局) 今のところ考えていないが、地域の民間企業や市民との連携は今後の課題であると考えている。
- (委員) 常連利用者ばかりになってしまう事例が多いので、多くの市民に利用してもらい地域が活性化するよう情報提供し、さまざまところと連携してほしい。
- (委員) 全国で図書館が増えているのはコミュニティの場として活用しているから、と言われている。ファブスペースもひとつのファクターとして図書館にあっていいと思うが、相当のPRが必要である。プロポーザルで事業者は決まったのか。
- (事務局) 運営支援事業者を決定した。広報や機器の操作、イベント等に関して支援を委託している。
- (委員) ファブ機器を小学生のうちから経験できるのはすばらしいことで、将来を考える一助になる。PRには力を入れてほしい。
- (委員) 海外で普及しているとのことだが、特に若い人たちにどのように使われているのか。図書館離れをしている若年層が足を運ぶきっかけになるといい。
- (委員) STEM教育等、若者や子どもたちに提供できるプログラムもあるとよい。
- (委員) 日本には140か所ものファブスペースがあると聞いたが、情報交換してはどうか。
- (事務局) 整備方針を策定するにあたり、先行のファブスペースについて調査や視察を実施した。各施設が想定する利用者層や機器のグレードはさまざまであり、本市も地域に合うファブスペースのあり方を検討した。

- (委員) 開設後も、情報収集をするとよい。
- (委員) 小学生は保護者同伴とのことだが、ハードルが高いのではないか。高学年の児童が親と一緒に利用するかも疑問に思う。運用する中で、年代ごとの利用状況を把握してほしい。
- (委員) 子どもは主たる対象ではない印象である。個人利用よりも、学校と連携し総合学習授業の一環として活用してもらう方がよいのではないか。
- (事務局) デジタルファブリケーション機器は習得するのにスキルが必要であるため、中学生以上を対象としている。小中学生には家庭では触れられないそうした機器を体験できるよう、イベントに参加してもらいたいと考えている。PRに関してはホームページやSNSを活用し、今後、本格的に実施していきたい。
- (委員) ファブスペース内に関連資料を排架するのか。
- (事務局) ワークスペースに関連資料を排架し、関連資料の展示も行う予定である。3月23日(土)9時半よりオープニングセレモニー、10時より見学会やイベントを開催する。
- (2) その他、委員から以下のような情報提供及び図書館運営に関する意見が表明された。
- (委員) 江戸川区の角野栄子児童文学館に行って来た。非常に楽しかったが、浦安が目指すこども図書館像とは違うと思った。こども図書館は子どもたちとコミュニケーションを行い、明日もあさっても毎日来ていいという場所だと思うが、文学館はそういう場所ではなかった。
- (委員) こども図書館の進捗状況は。
- (事務局) 主管課は生涯学習課のこども図書館準備室である。令和6年度に修正設計を行い、子どもの相談窓口も備えた複合施設となる予定。令和7年度に実施設計、令和8年度の着工を目指す。
- (委員) 新聞によると「今の子どもは意外と読書好き」とのことだが、高校生になると本離れが進む。市内のある中学校ではカリキュラムの前に本を読む時間があると聞いた。紙で読むことの大切さがある一方で、オーディオブックも増えているが、図書館ではどう考えているか。
- (事務局) 若い人の間でも耳からの読書が流行しており、読書の一つの形として認識しているが現在のところ導入の計画はない。朗読CDは所蔵している。
- (委員) 評価項目4「子ども読書活動の推進」として、漫画を貸出してはどうか。協議会で選書の基準を作って、受賞作品等を館内閲覧できるようにしたら、YA(ヤングアダルト)の利用につながるのではないか。習志野市や豊島区など漫画を所蔵している図書館はある。
- (事務局) 本の選定については資料収集要綱があり、漫画については収集しないこととしている。コミックエッセイ等、漫画の手法を使っている資料は一部所蔵しているが、コミック全般を収集するとなると相当な場所と予算が必要となる。また、当館で

は活字文化を子どもたちに伝えていくことに開館当初からこだわって来た。

- (委員) 定評のある漫画をセット貸ししている図書館は少なくない。漫画の収集については、将来的な検討事項にはなってくると思う。
- (委員) 日本図書館協会の図書館災害対策委員会の委員をしているが、能登半島地震による図書館の被害を報告する。被災して3か月経過したが、輪島市の3館、穴水町の1館は再開のめどが立っていない。東日本大震災の時はボランティアで現地に行けたが、今回は、交通や宿泊、トイレに問題がありボランティアもほとんど入っていない状況である。
- (委員) 耐震構造や免震構造を施した図書館は再開が早かったようだ。

以上